



今年の干支は「戊戌」です。この干支とは、正式には「十干十二支(じゅうかんじゅうにし)」といい、この字の干と支を足して干支よんでいきます。

十干は、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の十、干支は子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二から成ります。

十干は、木火土金水の五行を基本としており、例えば甲は「きのえ」、乙は「きのと」と呼び、それぞれ「木の兄」「木の弟」という意味で兄は陽、弟は陰を指し、陰陽五行説の暦法の一つです。

十二支はその木火土金水から成る、生命のうごきを表したものが本義で、誕生から次の生命への流れを表していますが、覚えやすいように動物が当てはめられたのが、いまの干支です。

その干支の中でも、本年は戊戌(つちのえのいぬ)年で、これは「土の兄の戌の年」という意味で、陰陽五行に則れば、「戊(つちのえ)」は土性の陽年を示し、金運をもたらす年まわりとされ、中でも陽年は器のように多く受け入れる年ともいわれます。しかし、土性は水性を汚すともいい、油断すると悪事に走りやすいともされます。然しながら土は、次相である木を育むともどもあり、次代の為の蓄えを残す年まわりともいえます。

十二支の戌の字は、干支が考案された中国では、本来果実が土へと落ちたあと、その草木の本体が、無事役目を納めて次第に枯れていく様を表した漢字で、人間に例えるなら、子供が無事大人になったあと、隠居して悠々自適の日々に入るような年まわりともいえます。

この戌と戌の年を総じて判じますと、次代の為の年という事になるかと思えます。

また動物の犬に目を移しますと、犬は外敵を寄せ付けない、仲間意識の強い動物で、神社境内の狛犬のように大切なものを守る存在とされています。安産祈願が戌の日なのも、お産の軽さよりも本来は、悪いものが寄ってこないようにという願いからともいわれています。また犬は日本書紀の倭健命や、花咲か爺さんの説話のように、幸運への導きの動物でもあります。

この年が皆様にとられまして、大神さまに見守られての、悪しきものが近寄らない、また次代の為の導きある年となられますよう、ご健康とご多幸を祈念し、ご平安の御祝詞申し上げる次第です。

御本社 御屋根 御修理について

昨秋、台風二十一号の被害によって、当宮御本社の、本殿ならびに稲荷社の御屋根が傷み、各所から雨漏りが発生し、今後大々的な修理が必要な状況となりました。

現在、専門家の方々によって御屋根の状態を調査中で、はっきりとした事はまだ分かっておりませんが、復興から既に六十年を経過している事を考えますと、近々に葺き替えをしなければならぬ状況である事は間違いないと見做されます。

今後、具体的に事業計画が決まり次第当宮サイトや社頭において告知してまいります。その節には、どうぞ皆様の赤心からのご賛助を心よりお願い申し上げます。

※二年前より進めておりました御旅社の玉垣事業でございますが、御本社御屋根の御修理が緊急を要する状況である事から、まずは御本社の御修理事業を優先的に行っていく事となりました。悪しからずご容赦くださいませ。

厄年の御祈禱

当神社では厄年の厄除け祈禱を受け付けております。左表にもあります通り、それぞれ厄年がございますが、特に数え年の男性四十二才(昭和五十二年生)、女性三十三才(昭和六十一年生)の本厄の方は、大きな厄年となります。

厄除け祈禱はそういった年回りに、災厄が訪れないようにと祈る御祈禱で、一月二月の時期にお受けになられるのが吉とされています。

当神社での御祈禱はご予約制ですので、事前にお電話等でご予約下さい。(初穂料五千元)

- 御本社(神山町) 〇六六三六一二八八七
- 御本社(茶屋町) 〇六六三七一一五八六

Table with 3 columns: 前厄, 本厄, 後厄. Rows for 男 (Male) and 女 (Female) with birth years and ages.

Table with 3 columns: 前厄, 本厄, 後厄. Rows for 男 (Male) and 女 (Female) with birth years and ages.

※厄年の年齢は数え年です(満年齢に二歳足す)。
※紫Ⅱ大厄、黄色Ⅱ中厄、白Ⅱ小厄

綱敷天神社 SNS、地図サイト

